

くのはら おんだ
久野原の御田が奉納されます

久野原の御田は、和歌山県の無形民俗文化財に指定されている伝統芸能です。久野原区の岩倉神社境内で、2月11日(月・祝)に奉納されます。

久野原区には、縄文時代後期(約4000年前)の遺跡が存在しており、古くから人々が生活をしていました。また、高野山に伝わる史料には「久美原」という地名や水田の面積が記されており、鎌倉時代には稲作が行われていたと考えられます。久野原区の集落や水田は、土地の隆起や有田川の浸食によって形成された河岸段丘上であり、江戸時代に大規模な水路が整備されるまでは長らく水不足に悩まされてきました。久野原の御田は、このような状況の中で稲作の生産過程を模倣的に演じることによって、その年の豊作を神仏に祈願するために行われてきたものです。久野原の御田がいつ頃から行われるようになったのかは定かではありませんが、室町時代後期(約400年前)と考えられています。

全国に伝承されている御田行事の大半は、田植えの所作までですが、久野原の御田は田起こしから、稲刈り、初供えまでの全生産工程を舅が躰に教えるもので、このような例は全国的にも珍しく、大変貴重なものと評価されています。御田に先立ち行われるお渡りは、幟を先頭に役者や関係者が整列し、謡い囃子を歌いながら岩倉神社の馬場道

をゆつくりと歩きます。御田は、岩倉神社境内の舞台で行われ、舅方・躰方に分かれた座謡による歌や掛け合いに応じて、役者が無言で演技を行います。その中でも子どもたちが演じる早乙女役は、御田終盤の苗取り・田植え・稲刈りなど主要な農作業の場面に登場しますが、その愛くるしい動作によって場を華やいだ雰囲気になっています。

現在、全国的にも過疎化によって伝統芸能の保存や継承が困難な時代を迎える中、保存会を中心とした久野原区民の皆さまによる並々ならぬ努力によって、数100年以上にもわたる伝統が継承されてきました。また、保存



久野原の御田

会関係者を中心に、本番に向けた練習や事前準備が行われています。ぜひとも2月11日には多くの皆さまに現地を訪れていただき、この歴史ある伝統芸能をご観覧いただければと思います。

◆久野原御田

奉納日時：2月11日(月・祝)

(お渡り12時30分、御田13時)

奉納場所：岩倉神社(久野原小学校北隣)